



Blancpain GT World Challenge Asia 2019

Rd.9&10 Korea International Circuit / KOREA

2-4.Aug.2019

Photo by HubAuto Corsa

【HubAuto Corsa チーム体制】

チーム : HubAuto Corsa

マシン : Ferrari 488 GT3

カー No. : 27

クラス : GT3 Silver

チーム代表 : モーリス・チェン (Morris Chen)

Aドライバー : 坂本 祐也 (Yuya Sakamoto)

Bドライバー : マルコス・ゴメス (Marcos Gomes)



Qualifying Rd.9 / 5th (2:09.329 Y.Sakamoto) Rd.10 / 8th (2:08.139 M.Gomes)

舞台は日本から韓国に移り、ブランパン GT ワールドチャレンジアジアとしては初めての、韓国国際サーキットで開催されます。2010年～2013年までF1韓国グランプリが開催されたサーキットでもあり、比較的新しく、1周が5.621kmと3本のストレート、低速・中速・高速コーナーが入交る、ロングコースになります。今回からまた新しくパートナーとなったブラジリアンドライバーのマルコス・ゴメス選手と同様に自分も初のサーキットとなるため、事前にYouTubeでの車載動画や、シミュレーターを使って念入りに下準備を進めて入りました。金曜のフリー走行は走り出しから悪くなく、1回目を4位、2回目を3位で終わりました。土曜朝のオフィシャルプラクティスでは9位と低迷しましたが、予選に向けてのセットアップは順調に進められました。予選1回目は坂本がアタック。自身のベストタイムは更新するものの、各セクターのベストタイムを繋げる事が出来ず5位。予選2回目はマルコスのアタックで、これまでの彼自身のベストタイムは更新しましたが、他も大幅にタイムアップをしており、8位というポジションでセッションを終えました。ターンインでのオーバーステアがまだ残っているため、決勝に向けてセットアップを改善させて、決勝に臨みます。



RACE Rd.9 / 2nd (Silver Class 2nd)

土曜、第9戦決勝は予選をアタックした坂本がスタートドライバーを務めます。日本ではちょうど梅雨明けとなり、猛暑が始まっていましたが、ここ韓国でも同じく猛暑となっており、15:40 スタート時点で気温 35℃強、路面温度は 49℃を超え、1時間のレースとは言え、過酷な条件下のレースとなります。5番グリッドから絶妙なスタートを決め、2コーナー立ち上がりまでに4位へポジションアップ。続く3コーナーを並走でアウト側で踏ん張り、4コーナーで3位にポジションアップ。続く5コーナーでアウトから仕掛け2位に浮上。3台抜きの2番手でオープニングラップを戻ってきます。トップから3位まではほぼ等間隔で1.5秒以内でのバトル。集中力を切らさず、トップに行くマシンを追いかけますが、オーバーテイクするまでには追い込めず。12周目にいち早くピットに入り、タイヤをNewに交換。ドライバーを坂本からマルコスへ変わり後半戦勝負に出ます。しかしこの時、エアジャッキのトラブルで約6秒をロス。4位までポジションを落としてしまいます。ここからマルコスの怒涛の追い上げが開始されます。コースに復帰した2周後には前車をパスして3位に上がると、9秒台、8秒台を連発し、トップから2番手に落ちたマシンをラスト5周でオーバーテイク。2番手の座を奪い返します。その後トップを追いかけるも、残念ながら4秒届かず。2位でチェッカーを受けました。

今シーズン4度目となる表彰台、そして2位は2回目となりましたが、今回も優勝には届きそうで、届きませんでした。ピットストップでのロスが無ければ優勝も十分に見えていたレース展開でしたので、非常に悔しい2位となってしまいましたが、チームメカニック、スタッフ、ドライバーのすべてのみんなが頑張っ勝ち取った2位表彰台だったと思います。翌日のRd.10は、サクセス・ペナルティ・ピットストップ10秒ハンデがある中で、いかにそれを克服し、上位に入れるかを目標に、さらなるマシンセットアップの向上と、作戦面も踏まえて、より良い状態で戦えるよう、チーム一丸となって臨みます。



RACE Rd.10 /6th (Silver Class 3rd)

Rd.10の決勝レースは正午過ぎにスタートとなるため、気温は35℃を優に超え、路面温度は57℃オーバー。前日より路面温度は8℃も高く、タイヤ、マシン、ドライバーにとっても非常に過酷なレースとなりました。8番グリッドからのスタートとなったマルコス、スタート直後の1コーナーでの混乱をうまく交わし、3つポジションを上げ、オープニングラップを5位でホームストレートに戻ってきます。その後、前を行くマシンと後続の2台を含む4台での4位争いが中盤まで続きます。突破口を見出すため、このレースでも早めのピットインをチームが決断。12周目にマルコスから坂本にドライバー交代し、タイヤも前日と同じくNEWタイヤに換え、前日の2位に伴うサクセス・ペナルティ・ピットストップ10秒も消化し、再びコースに復帰。NEWタイヤの利点を生かし、ピットアウト2周目には2:09.126のベストタイムを叩き出し、猛プッシュします。この時点で5位。しかし路面温度はその頃には59℃近くになっており、タイヤの熱ダレも予想以上に早く来てしまいます。前日のレースセットよりも、少しリアを安定させたセットアップで臨んだ今回のレースでしたが、低・中速コーナーでのアンダーステアが強くなってしまい、9秒台をキープ出来ず、10秒台をキープしながら何とか前とのギャップを縮めて行きましたが、後方からのマシンの追い上げもあり、残り2周でパスされてしまい6位にポジションダウン。4位を走っていたマシンのペースが上がらず、自分の目の前までポジションを下げていたので、ファイナルラップではいくつかのコーナーで仕掛けるも、ブロックされポジションアップならず。6位でチェッカーを受けました。セットアップ変更が今回は裏目に出てしまい、マルコスも自分も前日のようなパフォーマンスで走る事が出来ず、残念な結果となってしまいました。しかし、苦しみながらも何とか貴重な8ポイントを持ち帰る事が出来、ランキングも3位を死守しています。

残すは最終ラウンドとなる中国、上海戦となります。ランキングトップとの差は開いてしまいましたが、最後まで何が起こるか分かりません。優勝するために、予選でのパフォーマンスを上げ、決勝では優勝出来る展開を作りたいと思います。まずは悲願の優勝！！これを成し遂げてシリーズを締めくりたいと思います。ご支援、ご声援ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。

